



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:0593-31-1670
☎:0593-32-0733

掲示板法話

人身受け難し、今すでに受く

仏法聞き難し、今すでに聞く

「まだかまだまだ開かぬか梅の花」
(釈妙水)。この句は、立春を過ぎてても
尚寒さが続くある日、知人から頂いた
一句です。更に言えば、この俳句は「梅
一輪孫の顔見る日も近し」と詠んだ、
初孫の誕生を待ちわびる我が拙句に対
する風流な返句なのです。

風流というより、実にお恥ずかしい
次第ですが、孫の誕生を待ちわびなが
ら、「人身受けがたし今既に受く。仏法
聞き難し、今既に聞く」という「礼讃文」
のお言葉を味わっています。

そんなある日、「NHKスペシャル」と
いう番組で「人間とチンパンジーの違い」
という観点から、興味深いことを知り
ました。チンパンジーは人間に極めて近
い動物ですが、母体の胎盤が広いので、
助産婦さんの助けを借りなくてもお産
することができます。それに対して、人
間の場合は母体の胎盤が狭いため、助
産婦さんや産婦人科医の助けが必要な
のだということです。最近では、父親もお
産の部屋に入り、産みの苦しみを妻と
共に分かち合うことが勧められます。
我が息子もせつせと父親教室に通い、そ

の日に備えてきました。……

つまり、人間は生理学的にも「助け合
わねば生きていけない」身体的な構造に
なっているのです。更に、成人までに要
する時間(歳月)が動物に比べて圧倒的
に長いことも大きな違いです。成人まで
の時間が長いだけでなく、質的にも深
く微妙な関係性があるといわれます。

赤ちゃんに母乳を飲ませる母親の表
情には自然に微笑がこぼれ、満ち足り
た雰囲気漂ってきます。そのとき出
る分泌物質はオキシトニンというホルモ
ンで、専門家の間では「絆ホルモン」と呼
ばれます。これは母親(大人)が赤ちゃ
んから恵まれる何物にも替えることの
できないプレゼントではないか、とさえ
思えます。

乳児の頃に母親から抱きしめられ頬
ずりされて、母親の絆ホルモンにつっか
り触れる子供は長じて情緒豊かで、絆
(縁)を大切に作る人間に育ちます。
しかし、そのような触れ合いを体感せ
ずに育つと、閉鎖的で他人とのコミュニ
ケーションが苦手な人間になるかもし
れないのです。そうだとすれば、何かと



☆行事ご案内☆

◇「初参式と降誕会」

4月21日(土)午後1時半

講師:加藤幸子先生 主催:三全仏教婦人会

赤ちゃん、幼児、新一年生など大募集!参加費千円



◇4月の門信徒会例会

4月15日(日)夜7時半

5月20日(日)「門信徒総会&公開法座」の準備打ち合わせと
新行事さんの役員選出相談(新・旧行事さんお集まり下さい)

◇キッズサンガ 4月7日(土)午後4時よりお友達誘って来てね
毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもOK 飴ガム付。年中無休

◇三重組コーラス 毎月1回午後1時半西勝寺様で日程未定

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。「住職と坊守のつれづれ
日記」が好評。開設3年7ヶ月で6万5千訪問、一日平均100以上!

(募集のお知らせ)

☆4月13日(金)京都山科別院「親鸞聖人750回大遠忌法要
参拝」(ご門主様ご出座)申し込み先、館勇次(電話059・
331・9411)まで、お早めに奮ってご応募下さい。



山田寺の仏頭によせて
「こんな顔で」
相田みつを
(一部抜粋)

手のかかる育児の苦勞が実は意味深い
人間形成の過程でもある訳です。
「天上天下唯我独尊」というお釈迦さ
まご誕生時の宣言は、このように生理
学的に味わい、仏法聴聞により深めら
れます。縁あって人の世に生を受け、無
数の恵みに支えられ育まれてきた我が
いのち。だからこそ、この人生を完全燃
焼して生き切って行く人生、仏様の世
界に生まれ変わる人生を歩んで欲しい
と願われているのです。

宮沢賢治の「雨ニモマケズ風ニモマケズ」
というのはこんな顔の人を言うのだろう
この顔は悲しみに堪えた顔である/苦しみ
に堪えた顔である/人の世の様々な批判に
/じつと堪えた顔である/そして一言も弁
解しない顔である/何も言い訳をしない顔
である/そしてまたどんなに苦しんでも/
どんなに辛くても/決して弱音を吐かない
顔である/絶対に愚痴を言わない顔である
/その代わりやらねばならぬことは/ただ
黙ってやりぬくという/固い意思の顔であ
る/一番大事なものに/一番大事なもの
をかけてゆく/そういう毅然とした顔であ
る/(略)息子よ こんな顔で生きて欲し
い/娘よ こんな若者と巡り逢って欲しい

坊守スケッチ

「身の上相談にのってくれる寺だとホームページで知りました。今から行ってもいいですか？」と電話がかかった。三十分もしないうちに、若い女性が現れた。玄関先で話すのも憚られるので、食堂に招き入れた。名前も住所も年齢も告げない。一体どんな悩みかもサッパリ分からない。ポツリ、ポツリ話すうちに、彼女の全容が薄っすら見えてきた。

幼い頃から家族の愛情に恵まれず、頼る親戚もない、一人ぼっちの生い立ち。信じていた人の裏切り。職場でのイジメ。うつ病。仕事も住まいも失い、現在は車上生活。唯一残された車とケータイだけが生きがいであり、人と繋がる手段。「簡単に生活保護を受けるように勧めてくれる人もいるが、自分のプライドが許さない。それに車を失うと不便なので嫌だ」と断固拒否。彼女の生活ぶりを聞くうちに、だんだん切なくなってきた。私のところに来る前に、彼女はあらゆる所に相談に行った。だから私の前でもとうとうと話すことが出来る。延々と話を聞くこと3時間、彼女が望むような解決策を、少しも与えることは出来なかった。私は法律の専門家でもなければ、福祉の専門家でもない。ましてや彼女に与えるお金も持ち合わせていない。「傾聴ボランティア」とは、何て重苦しい仕事なのだろうと思った。こんな

聞く心得とは？

ことでは、彼女が満足できるはずはないと葛藤しながら時間が流れた。5時の鐘を契機に「温かいコーヒーでも飲む？」と聞いた。「昨日から何も食べていません」というので、冷蔵庫にある食べ物と一緒に差し出した。お腹が満たされた彼女の顔からやつと笑みがこぼれた。「ああ、よかった、安心。また辛い時があったらいつでも来なさいね」と見送った。来た時よりは幾分明るい顔つきで帰って行った。

ところで臨床心理学者の河合隼雄氏は、心に傷を負った患者に接する時には一切アドバイスをしないそう。だ。「うんうん、そうか、それで？」と相づちを打って話を促すだけ。何故ならその昔、苦い経験をされた。アドバイスをした患者さんが「先生のおかげで元気になりました」と初めの間は喜んでたが、しばらくして「今度は先生の言うとおりにしたら、ひどい目にあっただろうとしてくれる」と怒鳴り込んで来た。他人のアドバイスが有効に働くうちはいいが、上手いかなくなると、アドバイスのせいにする。自分の中に失敗の原因を探さなくなる。「ただ聞くこと」とこれが相手の心を開かせる鍵です」と相づちの極意を語られた。自分の人生は、自分で歩むのだから自分の責任で決めるしかない。他人の指示に頼るばかりだと、失敗の原因を全部他人のせいにする。身の上相談者



は、誰かの後押しがほしいだけかも知れない。アドバイスをよりも、寄り添う時間を共有することが大切だと思う。

☆寄稿

四日市市川崎孝一

☆如月忌 ご遺徳偲ぶ 武子女史

おのれ詠みしぞ 数多の哀歌

☆うひうひし 初参拝の 敬さま

九具足飾る 祖師の御前に

☆冷える朝 銀輪駆って 颯爽と

法座の報せ 貼るお庫裡さん

四日市 釈妙水

☆雪暮や おでんの湯気が

身に沁みて

☆すまし汁 葱の香りが 旨味増す

☆春が来た 雛を合わせて 春まこ

お悔やみ申し上げます

★館たつの機(3月9日)亡・97歳・小杉町)合掌

キッズサンガ・杉の子合唱団

☆4月7日(土)午後4時より

※3/10現在、初孫誕生はまだ。二

ユースは次回5月号で。お楽しみに!

☆カンパ有難う☆

森内美恵子様・他匿名様よりお志・葉

書・切手有難うございました

☆ホットユース☆

(募集のお知らせ)

◇四月十三日(金)京都山科別院親鸞

聖人750大遠忌法要参拝(ご門主様

ご出座!)申し込みは小杉館勇次まで

(電話059・331・9411)

◇四月二十一日(土)午後一時

三全仏主催「初参式」赤ちゃんや子供

さんを大募集!参加費千円、申し込みは善正寺へ。わが初孫も参拝予定

新1年生や記念参拝も大歓迎!

☆4/15(土)夜7時半、新行事さ

ん、役員選出する為お集まり下さい。

☆善正寺のホームページ「三重 善正

寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守

のつれづれ日記」が好評。開設3年7ヶ

月)で6万5千アクセス突破1日平均

100訪問。悩み相談歓迎。一面左の

お問い合わせ欄をクリック。即返信。

平成24年度今後の主な行事予定

◇4月21日(土)午後1時半「初参式・

降誕会」加藤幸子師三全仏主催の初

参式に赤ちゃん及び幼児を大募集!

参加費千円 記念写真・赤飯・冊子進呈

地域の皆で子供成長をお祝いしよう

◇5月20日(日)午前は門信徒総会、

午後1時「公開法座」講師石川欣也師

(奈良) お誘いあわせて「参拝を!

◇「秋季永代経」8月18(土)・19

(日) 午後加藤正人師(桑名)

◇「報恩講」11月2日午後1時半と夜

6時半・3日午前10時・午後1時三全

仏報恩講 講師大島信隆師(岸和田)

◇「秋勧進」11月23日午前

◇「お内仏報恩講」12月1日(土)夜

☆ 編集子より ☆

『善正寺度より』第二二〇号をお届けし

ます。◇今年には寒さが続きました。

寒い東北に温かなボランティアの若者

たち。苦難は人を育てる。ここに光が!

東日本大震災から一年が経過しました。二度目の春
が巡って来ても遺体すら見つからない。山積みの瓦礫、
原発の放射能汚染など、気の遠くなるような復興
への道のりです。ある避難所に心のケアお断りの張
り紙がしてありました。何も失っていない人々が、何もかも
失った人々の心にズカズカと入り込んで、分かる、分かる
と頷いたところで、被災者の心は閉ざしたままです。
「時間が癒してくれるよ」と安易な慰めの言葉も
却って悲しみを増幅させるだけです。震災一周年
を前に連日テレビでは特番を放映しました。「家が流さ
れ人が死ぬのを見るのがそんなに面白いのか！放っておい
てくれ」と怒りをぶつけてスライキを切る人。「震災
さえなければ愛しい家族が生きていたのに」と仮
設住宅で酒に溺れる人。被災地の誰かが未来への不安
を抱えたままの一周年でした。支援者自身も果てしない
疲労感や無力感で燃え尽きそうです。被災地の瓦礫
処理が、放射能汚染が恐いという住民の反対で、多く
の自治体から受け入れ拒否。善意の支援は見せか
りだけで本音は冷たい行動。被災地の苦悩は深まる
ばかりです。私達は一緒に重荷を背負う覚悟で
被災者の望む息の長い支援に努めたいと思っております。
三月は二十一日(土)三全仏婦主催「初参式と降誕会」
我が初孫も参拝予定。皆林もせひお参り下さいませ
平成二十四年四月 合掌 善正寺坊守拝